

4人の食卓

2004(平成16)年4月22日鑑賞(東宝試写室)

★★



監督=イ・スヨン/出演=チョン・ジヒョン/パク・シニャン/ユ・ソン/チョン・ウク/
キム・ヨジン (CJエンターテインメント配給/2003年韓国映画/126分)

……「4人の食卓」は、結婚を控えた2人が準備した家族団欒と幸せの象徴だが、タイトルとは正反対に不幸な出来事が次々と……？ 『猟奇的な彼女』のチョン・ジヒョンが180度イメチェンして出演した「アジア発の新感覚心理迷宮ホラー」とのことだが、ワケのわからない映画は私にはどうもイマイチ……？

結婚を控えたカップルと4人の食卓

主人公のジョンウォン(パク・シニャン)はインテリア・デザイナー。

恋人のヒウン(ユ・ソン)は、ジョンウォンとの結婚を控えて、結婚式の招待状や新婚家庭の準備に嬉々として励んでいるが、ジョンウォンはなぜか落ち着かない……。

ヒウンが新婚家庭用に仕入れてきたのが、モダンな4人掛けの食卓。ヒウンは、その照明に工夫を凝らすなど、新婚生活を夢見て、その準備に幸せいっぱい。しかし、この映画のタイトルとなったこの「4人の食卓」が、すべてのホラー劇の始まりとなった……。

なぜ2人の子供が、食卓に……？

ジョンウォンが地下鉄の最終電車に乗って眠りながら帰路についていた時、1人の母親が2人の子供を連れて地下鉄に乗り込んできた。

そして空いている席に1人ずつ子供を座らせた。最終駅到着のアナウンスで目覚めたジョンウォンは、慌てて列車から飛び出したが、なぜか列車内には2人の

子供だけが残っていた……。

すると翌日、地下鉄の列車内で2人の子供が「毒殺」されたとの新聞記事が……。この記事を見て気になるのは人間なら当然。

ヒウンが新婚生活を準備している家に帰り、夜遅くまで図面と「格闘」していたジョンウォンが、ふと気がつくと、何と「4人の食卓」には、列車で毒殺された2人の子供が座っていた……。これぞホラー……。？

180度イメチェンのチョン・ジヒョンの登場

韓国映画ブームを呼んだ『猟奇的な彼女』（01年）で、派手に男をブン殴る主人公を演じたのがチョン・ジヒョン。以降、引く手あまたの彼女が、自ら選んだのがこのホラー作品とのこと。

彼女は、この映画では、興奮状態に陥ると体の力が抜けて眠るように倒れてしまうという嗜眠症（眠り病）の患者ヨンとなって、精神科クリニックに通院している、陰のある「暗い女」を演じている。霊媒師の母をもつヨンは、どうも通常の人間が見えないモノが見えるらしいが、そのあたりの事情はややこしいので省略……。？

ジョンウォンの迷宮とヨンの迷宮

話をややこしくしているのは、死んだはずの2人の子供が「4人の食卓」に座っているのを見たというジョンウォンも、通常の人間が見えないモノが見えるのかもしれない、ということ。

だから当然ジョンウォンは悩む。そして、偶然知り合ったヨンから、「テーブルにいる子供たちを寝かせたら……」と言われたため、2人の間には「共通項」があることが……。

そう、2人とも、何らかの「迷宮」に入り込んでいるわけだ。しかしその迷宮の様相は……？

スクリーン上では、手を変え、品を変えて（?）、数々の回想シーンが登場し、画面が矢継ぎ早に変わっていくものの、どうも、話がややこしく、ついていくのがしんどい……。？

1本の筋として、2人の子供殺しの母親の刑事裁判が描かれており、その結論として、この母親は、「子供を殺したことは認められるが、心神喪失で無罪」となる。この刑事裁判のストーリーはよくわかるのだが、この話と他のいくつかのストーリーがどう絡まっているのかを理解するのがしんどく、実はよくわからないというのが私のホンネ……？

この手のホラーは苦手……

『猟奇的な彼女』で、活発な女子学生を演じたチョン・ジヒョンだが、この映画では役柄上、一貫して暗い女を演じている。

したがって、当然しゃべりも抑揚がなく、表情やスタイルも全然魅力的ではない。パンフレットによると、チョン・ジヒョンは、「心理映画として、複雑な魅力にあふれていたから」この作品を選んだとのことだが、観客としては、当然魅力的なチョン・ジヒョンを観たいもの。むしろ、途中で恋人ジョンウォンの裏切り(?)に遭った後、暗く豹変するものの、それまでの明るく活動的なヒウンの役を演ずるユ・ソンの方が魅力的……？

どちらにしても、こんな映画の見方をしてる私には、こんなにも暗く、ややこしい心理描写を狙ったホラー映画は苦手。

パンフレットがいうように、「複雑な心理を具体的なイメージや場面によって提示し、そこから綿密な構成でストーリーを展開させる手法」は、「韓国映画界が最も注目するイ・スヨン監督」という女性監督ならではのものかもしれないが、どうも私には……？

最後に、「4人の食卓」のイスがすべて満席となるシーンも、十分意味はわからないものの、何となく不気味なことは確か。もちろん、そのイスに誰が座っているのかは、あなたならわかるはず……？

2004(平成16)年4月22日記